

思いやりのお花畠

小四

「おはよう！」

今日も新しい朝が始まります。かわいくて元気な弟といつも通り明るいあいさつを交わします。わたしの弟は、脳性麻痺（のうせいまひ）です。お話はできるけれど、体が思つた通りに動かないしょう害があります。そして、し体不自由の弟のための特別しえん学級が小学校を作られ、今年ついに入学しました。

わたしは、毎朝起きたら、弟をおんぶして、家の二階から一階まで階段を下り、学校に行くじゅんびを

します。いつしょに歯をみがいたら、着がえ、ごはん、トイレのお手伝いをします。朝のじゅんびはバタバタでいそがしいです。朝のじゅんびが終わると、デイサービスの人が送りとむかえをしてくれます。

弟は、お笑い番組を見て思いつきり笑うし、体を動かす番組や野球、サッカーを見ると、とてもうれしそうに声を出して足をバタバタ動かします。家族で話し合ったり、公園にお出かけしたりしてすごす時間は、わたしのたから物です。

弟は、運動やストレッチを毎日しないと体がどんどんかたくなつてしまいますが、だから家ではうで立てやふつきん、スクワット等のきんりよ

くトレーニングを一時間以上、いたい思いをしながらがんばっています。でも、毎日元気にすごせるようたくさん努力をしています。

わたしは、弟と遊んでいるときに、いつも気になっていることがあります。それは、他の人から弟に向かっている目です。

「なんで足に何かつけているの？」
「どうしてあんなにお父さんにささえられているの？」

というような目で見てくるように感じます。町を歩いていて子どもや大人も関係なく、たくさんの人たちが弟の顔や体を何秒間もそういう目で見てくると、わたしはつらくなつて、

立ち止まってしまうことがあります。そんなときには、弟が周りの目を気にせず、無じや気に笑って遊んでいます。がたを見ると、わたしも勇気がわいてきます。

そんなわたしと弟の日じょうの中で、うれしい出来事がありました。それは、小学校で二年生と一年生が遊び会で楽しく交流をしてから、弟の教室にたくさんのお友達が遊びに来てくれるようになつたことです。その会の前は弟と先生、わたしだけだつたけれど、一年生と二年生、四年生のわたしの友達も弟に会いに来てくれるようになりました。教室がとてもにぎやかで明るくなりました。弟だけだつたクラスに友達がふえて、わ

たしは、すごくうれしくなりました。

チャイムが鳴ると弟の教室に遊びに
きてくれた友達が、

「また来るね！」

「楽しかつた！」

と言つて自分の教室にもどつてい
ます。

どの友達も弟に必ず一言声をかけ
て出でいきます。わたしは、その温
かい一言一言がお花のように見えま
した。

温かいまなざし、温かい声かけ、
その一つ一つがその人のささえに
なつていきます。わたしの大切な弟
が、どんなときも笑つてすごせるよ
うに、たくさんの人には弟のことを
知つてもう工夫をしていきたいで

す。これから弟が生きていく世界で、
弟の教室で、さいた笑顔のお花が、
さらに弟の周りでたくさん咲いて、
温かい思いやりのお花畠ができます
ように。